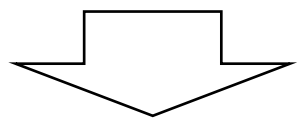


- 津市総合教育会議において、市長と教育委員会が十分な協議を重ね策定
- 策定にあたっては、あらかじめ教育大綱に関連する教育現場の現状・課題を把握するため、津市総合教育会議懇談会を開催

小中学校長会、幼稚園長会、三教組津支部、津市PTA連合会



総合教育会議での議論や学校現場や保護者の声を踏まえ、今取り組まなければならない優先事項を絞り、3つの着眼点を整理して策定

◇ 最初の教育大綱を策定した際、中心に据えたこと ◇

- あえて網羅的な構成ではなく「ゴツゴツ」している。
- 記載項目や字数が少なくシンプルである。
- 学校現場や保護者の声を踏まえ、優先事項を絞って提示していることから、施策への切り口が違う。

	着眼点	小見出し	個別事項		着眼点	小見出し	個別事項	総合教育会議で個別事項の決定までに寄せられた主な意見
最初の教育大綱 平成29年度から令和元年度	1 教員が子どもたちの確保と	時め子どもを教員たちが子どもの学力を向上させ合うた	①期待される教員の姿	現 行 の 教 育 大 綱 令 和 2 年 度 か ら 令 和 5 年 度	1 教員が子どもたちの確保と	時め子どもを教員たちが子どもの学力を向上させ合うた	①期待される教員の姿	教員の時間の確保により、教員が知識を高めるように記載すべき。
			②人的支援の充実				②授業力の向上	主体的・対話的で深い学びとはどういうことかについて記述。情報化、グローバル化を踏まえ情報機器（デジタル教材、ICT環境整備）による具体的な対応を書くべき。
			③特別な支援が必要な子どもたちへの支援				③人的支援の充実	教育の新たな取組への期待と不安に対して応えていく記述を書き込むべき。
			④学校教育と幼児教育の連携強化及び学校教育と連携した家庭教育の充実				④効率的・効果的な学校運営	会議時間の短縮が大事なのではなく、会議も教員間の意思疎通を図るためには必要。非効率な会議を無くすことが大事。
			⑤部活動				⑤特別な支援が必要な子どもたちへの支援	全ての教員が特別支援教育に関する知識、技能の習得に努めるという文言は大きな前進。支援を必要とする子どもたちを通じた教育的意味も加筆すべき。
			⑥小中一貫教育				⑥部活動の適正な運営	まず、部活動の意義を記載し、部活動指導員の配置は、教員の負担軽減だけでなく専門性の活用も目的としていることを書くべき。
	2 組織的な学的・校・機動的な運営	子どもを信頼し、学校を組織的に運営し、校・機動的に	①効率的・効果的な学校運営		2 組織的な学的・校・機動的な運営	子どもを信頼し、学校を組織的に運営し、校・機動的に	①校長のマネジメントによる組織体制の構築	校長のマネジメントの必要性を記載するとともに、校長がリーダーシップを発揮できる施策が必要。また、ミドルリーダーの育成についても記載が必要。
			②安心して学べる学校				②安心して学べる学校づくり	
			③先進的な学校経営				③地域とともにある学校経営の推進	
			④学校のさらなる防災力の強化				④小中一貫教育の充実	
	3 まちを支援する子ども環境の整備	子どもたちを中心に地域とともに	①学校施設の整備		3 未来へとつながる教育・子育て環境の整備	未来の津市をさらに魅力的なまちを整えるため、教育・子育ての環境を	①学校施設の整備	
			②地域とともにある学校施設整備				②地域による学校施設の利活用	
			③登下校時の子どもたちの安全安心				③登下校時の子どもたちの安全安心の確保	
			④放課後児童クラブの充実				④放課後児童クラブのさらなる充実	
			⑤認定こども園の整備				⑤幼稚園の再編と幼児教育の継承・発展	市立幼稚園を守っていくということをしっかりと書く。幼児教育の歴史・伝統を生かしながら環境整備を行い、幼児教育の継承と発展を進めていくことを記載。
			⑥新しい時代にふさわしい社会教育環境の整備				⑥新しい時代にふさわしい社会教育環境の整備	中高生の図書館離れの解消のためには、地域や学校との連携強化が大事。

最初の教育大綱を引き継ぎながら、さらに力を入れて取り組んでいくポイントを示し、見直しを行う。

学校経営が目的ではなく、信頼される学校づくりが目的であるため変更。

教育環境の整備は行政の責任。まち全体で責任を持つものではない。